

日本洋書協会会報

BULLETIN OF JAPAN ASSOCIATION
OF INTERNATIONAL PUBLICATIONS

目次

・2004年度定時総会報告	1
・理事会報告	2
・海外ニュース・委員会報告	3
・うちの会社 ほか	4
・出版文化史逍遙(90) 洋書の歴史雑記帳(XLV) ...	5

2004年度定時総会

2004年度定時総会は5月28日(金)午後4時30分より第一ホテル東京シーフォート(東京都品川区)にて開催された。

〔出席状況〕 出席 33社
委任状 23社
計 56社

正会員62社に対して上記のとおり過半数の出席を得たので、協会規約第5章第30条の規定に基づき本総会は成立した。

松浦総務副委員長(丸善)の司会・進行により開会、高橋事務局長より総会出席状況および2003年度中の会員動向が報告された。

村田理事長(丸善)の開会の挨拶の後、理事会及び各委員会の2003年度の活動内容が報告された。

理事会活動報告(浮田理事長代理/丸善)

1. 組織及び運営体制

2003年度定時総会では役員が改選され、理事7社、監事2社が選出された。更に指名理事2社を加えて現体制となった。会員数はこの一年間で正会員3社減・賛助会員1社増の結果、計70社である。

2. 定例会議

8月を除く毎月1回、11回開催した。

協会の活性化をどのように図るか、が大きなテーマであり、ここに議論が集中。新年度の会議の中で更に議論を深め、一定の方向性のまとめが出来た段階で会員各位に開示し、ご意見を頂戴したいと考えている。

また、各委員会活動についての報告を受け、実行したこと、計画していることの中身の検証あるいは総括を行った。更に消費税総額表示の問題、セミナーの企画、東京国際ブックフェアへの参加などについて、その方針を承認しながら各担当委員会を支援して来た。

3. 事務局長人事

正田新事務局長が6月1日付けで就任することとなった。6月一ヶ月間を事務引き継ぎ期間に充てる。

4. 事務所移転

事務所維持費節減のため今年9月を目処に移転を考えている。

委員会活動報告(各委員長)

総務委員会

- ・事務局長が高橋氏より正田氏に交代する。それに伴う諸条件の整備及び経費削減の諸策を検討して来た。
- ・関西地区において理事を含めた親睦会を実施したいと考えている。

会報委員会

- ・製作費削減のため会報を4乃至6ページ建てとする。
- ・会報301～400号(1992年9月～2000年6月)の合本を刊行した。

広報委員会

- ・詳細は既報告のとおりである。ご意見、ご要望などお寄せいただきたい。

事業委員会

- ・東京国際ブックフェア2004洋書バーゲンセールでは昨年を上回る売上があり、協会へ若干寄付が出来た。
- ・来年は会期が7月に変わる予定である。

ホームページ・ダイレクトリー委員会

- ・2004年版では自社紹介記事を広告として名簿ペー

ジに掲載した。次版では全会員に出稿をお願いしたい。

- ・ホームページ「ニュース欄」の充実に注力した。

文化厚生委員会

- ・同好会活動予算を大幅に削減したが、活動活発化のために多数の参加をお願いする。

議案審議〔議長：村田理事長〕

【2003年度決算報告】

関口総務委員長の内容説明の後、東條監事（南江堂）

及び鈴木監事（三省堂）より監査報告があり、採決の結果2003年度決算報告は承認された。

【2004年度予算案】

関口総務委員長の内容説明の後、採決の結果2004年度予算は可決、承認された。

以上ですべての議事を終了し、グレシャム理事の挨拶を以て2004年度定時総会を閉会した。

以上



理事会報告

5月28日（金）〔於・第一ホテル東京シーフォート〕

1. 6月1日付けで事務局長に就任する正田 実氏を紹介、挨拶を受ける。
2. 総会出席状況に関する事務局長報告を了承した。
〔正会員数62社 / 出席33社・委任状23社・欠席2社・無回答4社〕
3. 総会議事次第を確認した。
会員動向報告〔退会〕2社の外に以下の2社を

名簿から削除した旨の事務局長報告を了承した。

- ・（株）タトル商会〔合併のため〕
- ・インフォトレーダー（株）〔退会の意向表明後一年を経るも正式な退会届が提出されないため〕

4. 特別理事会

協会の抱える課題、今後の方向性などについて定例会議とは別に議論の場を設定することとした。7月中に開催する。

サマーパーティ!!

来る7月16日（金）JAIP恒例のサマーパーティが開かれます。今年は心機一転、会場が天王洲アイル・第一ホテル東京シーフォートに変わりました。同ホテル28階のスカイバンケットホール『トップ・オブ・ザ・ベイ』で、東京港の夜景が一望のもとに見渡せます。お誘い合わせの上、是非ご参加ください。

【文化厚生委員会・事務局】



◆.. 小規模出版社 Amazon. com の方針に反感

Amazon. com が co-op dollars (サイトに掲載する商品の版元に請求するキックバック) に関して打ち出した方針を、同社の最後通牒と受け取る動きがある。

この強権とも言える作戦に対し、小規模な独立系出版社の何社かは反発の声をあげている。取材に対して、Amazon. com が新規の契約で要求してくる金額が、現在でも厳しいマージンに加え経営を圧迫していると、多数の出版社が回答している。そして、彼らによると、Amazon はその契約条件を呑まない出版社に対しては、契約に応じた出版社とは待遇を差別すると通告しているとのことだ。

具体的には、契約に応じない出版社はパートナーシップ関係を失い、結果として、彼らの商品は Amazon. com サイト上でディスカウント販売されず、販売・宣伝プログラムでも取り上げられない。加えてそれらのタイトルにはサーチ・オプションが加えられないので、利用者が正確なタイトルおよび ISBN を入力しない限り、検索に引っかからない。

Amazon が各出版社に要求しているキックバックは、各社に Amazon が支払った正味金額総額 (前年 = 2003 年) の 2 ~ 5 % で、長年 Amazon と co-op プログ

ラム関係にある出版社でさえも最近の契約交渉は厳しくなっていると述べている。

Melville House の Mr. Dennis Johnson は、今回の要求を「脅迫」だと言う。「彼らが言っているのは、金を払うか、撤退するかということだ」他の出版社は、Amazon の申し出の調子に立腹して、「脅しには応えない」とコメントして要求を撥ね付けたと述べた。また、Amazon と協力関係を持ったことのない独立系出版社のトップは、「我々が支払ったキックバックに見合う、どのような利益を得られるのか、それによって我々の事業が成長できるのか」を示すべきだと述べた。

しかしながら、多くの (全部ではないが) 出版社が Amazon の要求を受け入れている。何社かは、それでも彼らと契約するのは、書誌情報源としての地位 (Amazon を利用しない顧客も含めて) によると答えている。契約するかどうか考慮中のある出版社は、契約するにしろ止めるにしろ、今後は自社ウェブサイトを通しての販売に専念すると言う。「書店側の動きは、出版社が直接顧客に販売するようしむけるものだ。我々としても利益を生み出す機会を見つけてゆかねばならない」

Amazon の広報担当者は、彼らが出版社と行っている交渉について述べるのを避けている。彼らの表明によると、「我々は全ての出版社 - 規模の大小を問わず - と協力して、その商品を最大限販売するよう努力している」とのこと。小規模出版社は、Amazon の動きは、ウェブサイトの歴史によるものだと言う。彼らの一人は言う。「Amazon は小規模出版社の特効薬だったところから現在まで、常に新しい商品・市場を求めて成長してきたのだ」

PWNNewsLine May 25, 2004

委員会報告 <文化厚生委員会>

フォーティラブ箱根合宿

とき：2004年5月15日(土)

ところ：箱根明神平・サニーパーク

5月15・16日と「フォーティラブ」の合宿が箱根で行われました。一日目は箱根の山に囲まれ抜けるような空の下10人を超えるメンバーが各地から集い、激しい対戦を繰り広げていました。日焼けで温泉の湯

に浸かれなかった人も多かったようです。夜は楽しい宴会で仮面の暴きあい。翌朝、雨の音で目が覚めて夢かと思いきやそうではなく、朝練をしようとしていた2名はやむなく断念して箱根の山をあとにしました。

(株)ミロブックスサービス・堀井俊之記

マグロウヒル・エデュケーション

東京都千代田区神田須田町1-12-3
アルカディアビル9階
Tel:03-5298-7221 Fax:03-5298-7224
E-mail: info@mcgraw-hill.co.jp

マグロウヒル・エデュケーション・ジャパンは、米国マグロウヒル社・教育出版部門の日本における活動拠点として、東京・神田にオフィスを置いています。日本洋書協会に入会させていただいたのはつい最近のことですが、マグロウヒル本社の歴史は100年以上遡ります。19世紀後半、James H. McGrawがThe McGraw Publishing Companyを、John A. HillがThe Hill Publishing Companyを設立したのが始まりで、1909年に、この二つの出版社が合併して、The McGraw-Hill Book Companyとなりました。創業当初は、特に理工系に強い大学教科書の出版社として活動していましたが、次第に、ビジネス・マネージメント、医学、社会科学等の分野にも進出し、後に小・中・高校用の教科書にも、幅広く力を注ぐようになりました。

教育出版社として発展してきたマグロウヒル社ですが、1960年代以降は、新たな境地へと活動領域を広げて参ります。まず、会社の格付けで有名なStandard & Poors社を買収し、続いてテレビ局も傘下におさめるなど、メディアへの進出にも目覚しいものがありました。事業の拡張に伴い、社名もThe McGraw-Hill Companiesへと変わり、今では全世界32ヶ国に約400程の拠点を展開しています。

マグロウヒル社は、現在、3つの部門で構成されています。

金融情報サービス部門 (Standard & Poors)
教育・専門書出版事業部門 (McGraw-Hill Education)

情報メディア事業部門 (Business Week, Platts, MH Broadcasting stations, etc)

「うちの会社」が、2番目の柱、マグロウヒル・エデュケーションであることは、言うまでもありません。マグロウヒル社が、金融・情報メディア方面に進出した間、教育出版部門も、着々と発展を続けておりました。ことに、医学、理工、経済・経営分野では、テクノロジーやメディアの活用を積極的に取り入れ、テキストや副教材の充実を図ってきました。ここ数年の間にも、Jamestown、NTCがマグロウヒル社に加わり、またOpen University Pressの販売代理店にもなりました。ELTも続々新刊が出版されて、益々教科書の質と幅が充実してきています。現在、日本支社は、3人のスタッフで業務を行っておりますが、将来スタッフの人数が増え、サービスの方も更に充実できればと思っています。これから

高野千春

【訂正】

ダイレクトリー2004 P.28 丸善(株) 支店・営業部

住所 関西支社神戸営業部

〒651-0086 神戸市中央区磯上通 4-1-6

シオノギ神戸ビル 9F

Tel : 078-221-3502

削除 <閉鎖のため>

関空エアロプラザ店

姫路出張所

会報合本4号発売中!!

1992年6月～2000年9月(301～400号)の洋書輸入協会・日本洋書協会会報を纏めた合本第4号を製作し、好評発売中です。この間の協会の歩みの記録、また内外の洋書市場の推移を知る資料として、是非お手元にお備えください。

B5版 クロス装

頒布価：5,000円(送料込み)

洋書の歴史雑記帳〔XLV〕ドイツ学術受容の歴史(8) 鈴木 陽 二

ケンペルの来日(1)

ケンペル以前に10名ほどのドイツ人が来航したが、ケンペルの来日で日独関係が日本の文化にとって初めて重要な意味を持つようになったと言えるだろう。ケンペル(Engelbert Kämpfer 1651~1716)はドイツのレムゴーに生まれ、大学で医学や自然科学、民俗学などを学び、1690(永禄3年)にオランダ東インド会社から出島のオランダ商館付医師として派遣された。

着任早々日本研究に着手したが、ケンペルは持ち前の人心収攬の巧みさや日本人への施療・施薬などで好意を持たれ、日本に関する情報を比較的容易に入手することができた。加えて、薬学の伝習を依頼されて雇った小使いの青年を助手とし、この若者の献身的な支援で多くの知識や資料を収集することができ、ケンペルの日本研究は飛躍的に進み、短期間に豊かなものになった。ケンペルはこの青年の努力に報いるため、薬学のほかに解剖学も教授したという。この助手がだれだったのかケンペルの著述で確認できる箇所はないが、通詞小頭今村市左衛門の子息の源右衛門と見るのが最も有力な説だという。彼は名を英生といい、イタリア人宣教師シドッチ密入国では命じられて急遽ラテン語を学び、新井白石による尋問で通訳を務めた。またハンブルク生まれのハンス・ユルゲン・ケイゼルがオランダの馬術師として1725(享保10年)に洋馬5頭を輸入して將軍吉宗に洋式馬術を披露したおり通詞として伺候し、また御馬方に洋式馬術を伝授した際の通訳も担当した。英生は將軍付きの大通詞として重用され、著作も、馬の調練に関するケイゼルとの問答と、馬の病気や薬についてのオランダ文献を訳して編述した『西説伯樂必携』や『和蘭問答』などを著し、西洋知識の導入にも目覚ましい成果を挙げた。

さて、ケンペルは1692(元禄5年)に日本を去った後、諸国を周遊して帰郷し領主の侍医となった。傍ら廻国の体験や、持ち帰った資料を整理し、『廻国奇観』と『日本誌』の執筆を進めた。『廻国奇観』(Amoenitatum exoticarum)は1712年に故郷レムゴーの出版社が刊行し、彼の生前の唯一の出版物となった。内容は彼が周遊した諸国の地誌・博物をラテン語で記したもので、そのうち第5篇は日本植物誌である。後年『日本誌』英語版がロンドンで刊行されたとき、

『廻国奇観』から日本に関する6編を採録合本した。

『日本誌』は日本に関する文献として不朽の名作だが、この本は彼の生前には出版されなかった。イギリスの王立学士院長のハンス・スローン卿はかねてよりケンペルの未刊稿を探していたが、1725年に遺産相続人の甥から3,600枚を越える遺稿を譲り受けた。スローンはスイス人医師でやはり王立学士院会員のヨーハン・カスパー・ショイヒツェルを指名し翻訳に当たさせた。こうして1727年に“The History of Japan”が刊行された。本書は1729年にオランダ語訳とフランス語訳が出版され、ドイツ語訳は遅れて1747~49年に刊行された。このドイツ語版は元原稿から直接ではなく、フランス語訳からの重訳で、しかも部分省略された拙速訳だったという。しかし、ドイツ語版についてはケンペルの最後の遺産相続人の姪が死亡してその遺品の中に直筆の草稿が発見され、それを歴史・地理・経済学者のドーム(Karl Christian Dohm)が厳正な校訂を行い、彼の故郷レムゴーの書店マイヤーにより第1巻が1777年、第2巻が1779年に出版された。この直筆草稿はその後所在不明になっており、大きな学術的損失と言われている。

『日本誌』は18世紀ヨーロッパの日本観を決定付け、その時代の紀行記に多かれ少なかれ影響を与えた。しかし、『日本誌』の重要性は日本に関する地誌記述の側面だけではなく、日本文化史研究に広範囲にわたり、いわば宝の山のような文献と言えるだろう。早川勇先生は「ケンペルの使った日本語語彙」(愛知大学『言語と文化』№8)で、英語に入った日本語語彙を研究するのにケンペルの『日本誌』が極めて重要だとして、英語版で約千語という日本語語彙について、キリシタン版の『日葡辞書』と『ヘボン和英語林集成』を照合しながら確定している。『オックスフォード英語大辞典(OED 2nd)』には多数の日本語語彙が収載されているが、試みに調べると、例えば“Samurai”などは『日本誌』が初出原典となっているので、恐らく日本語採録に当たって本書を十分に使ったのではないだろうか。〔参考文献:小堀桂一郎〕『鎖国の思想 - ケンペルの世界史的使命』/片桐一男『平成蘭学事始』/ヨーゼフ・クライナー『ケンペルの見た日本』

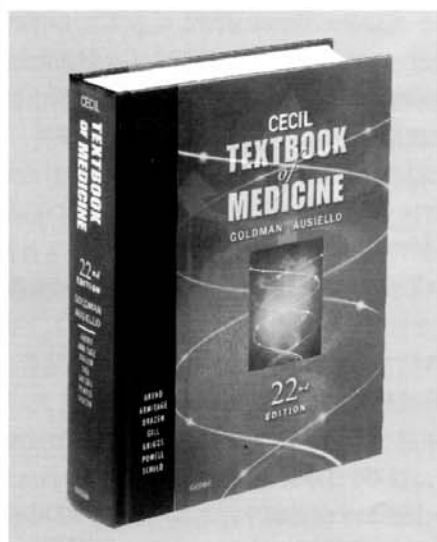
(元丸善・本の図書館長)

セシル内科学 第22版

Cecil Textbook of Medicine

22nd Edition

Edited by: Lee Goldman and
Dennis Ausiello



◆ 2506 pp.
1150 (1100 in full color) figs.
22nd ed. 2004
¥19,163 [税込]
(Single Vol)
¥23,730 [税込]
(In 2 vols)

◆1927年の初版以来、世界で最も信頼されてきた内科学参考文献。本古典的テキストの第22版では、450名を超える権威による最新臨床知見が、高精細フルカラーを使った新デザインと情報ナビゲーションシステムで補強されるとともに、疾患過程の科学的・生物学的基礎や診療プロトコル、病態生理・診断・治療の最新概念の全てが統合的に示されている。本書の中心部分は、疾患の主要器官系統別に構成されており、それぞれ患者アプローチや臨床症状、診断手順、治療戦略などが網羅されている。さらに、新版には、文や画像、ウェブサイトへのリンクが張られたCD-ROMも添付されている。

◆Partial Contents:

Part I: Social and Ethical Issues in Medicine/ Part II: Principles of Evaluation and Management/ Part III: Preventive and Environmental Medicine/ Part IV: Aging and Geriatric Medicine/ Part V: Clinical Pharmacology/ Part VI: Genetics/ Part VII: Principles of Immunology and Inflammation/ Part VIII: Cardiovascular Disease/ Part IX: Respiratory Diseases / Part X: Critical Care Medicine/ Part XI: Renal and Genitourinary Diseases/ Part XII: Gastrointestinal Diseases/ Part XIII: Diseases of the Liver, Gallbladder, and Bile Ducts/ Part XIV: Hematologic Diseases/ Part XV: Oncology/ ...

W.B. Saunders, Philadelphia
エルゼビア・ジャパン株式会社



ELSEVIER

〒106-0044 東京都港区東麻布1-9-15 東麻布1丁目ビル2階
Tel: 03-3589-6370 Fax: 03-3589-6371 E-mail: books@elsevierjapan.com

□版元価格。為替相場の変動により円価格を変更することもありますので、予めご了承ください。